

## 中野市働く婦人の家運営委員会会議録

- 1 名称 中野市働く婦人の家運営委員会
- 2 担当課 働く婦人の家 電話 22-2974
- 3 日時 平成22年9月29日(水) 午後6時～7時10分
- 4 場所 働く婦人の家 図書室
- 5 出席者 上原志津子委員、山本通子委員、米木善登委員、丸山晴美委員、清水もと子委員、小野茂子委員、尾坂光子委員 以上7名
- 6 市側 清水副館長、小菅指導員
- 7 会議資料 会議次第、業務概要、婦人の家だより 他
- 8 決定事項
  - ・平成21年度事業実施状況について……承認
  - ・平成22年度事業について……承認
- 9 会議内容  
協議事項 (1) 平成21年度事業実施状況について  
資料に基づき副館長説明  
(委員) 50～60歳代の利用が多いのは以前からなのか。  
(副館長) 以前からその傾向である。40歳代までは、子供が小中学生だったりするので、中々出かけられないのではないかと。  
(委員) 10年前に比べると、利用者数が半減しているがなぜか。  
(副館長) いろいろな講座を実施するところが増えたからと思う。  
(委員) 利用料は無料なのか。  
(副館長) 登録団体や市内に在住、在勤の女性が半数以上の団体は無料である。使用目的により有料になるが、ほとんどが無料であり、有料はほんのわずかである。  
(委員) 須坂の働く婦人の家は、利用者減少により、利用料を徴収するか思案しているようだ。  
(委員) 講座は1人でいくつも受講できるのか。  
(副館長) 1人2講座までとしている。  
(委員) 受講したいと思うが、仕事をしているとなかなか受講できない。  
(委員) 講座からサークルへ移行することが一番の目的であるので、昨年講座を受講し、そのままサークルに移行した。現在楽しく活動している。  
(委員) 男性が育児に協力してくれれば、女性ももっと受講しやすくなると思う。「イクメン」を推進しているがなかなか難しい。推進している役所も、まだ利用はあまりない。(県労政事務所長)  
(委員) 男性が育休を取りやすい環境が、まだできていないように思う。  
(委員) これだけの講座を計画してもらったり、施設を利用させてもらえてありがたい。

協議事項 (2) 平成22年度事業について

資料に基づき副館長説明

(委員) 去年のフェスティバルで陶芸の販売がよかった。

(副館長) 今年も販売していただく予定。

(委員) 知らなかった。他のサークルの販売はないのか、パッチワークは？

(副館長) 今年は陶芸だけである、パッチワークは作るのに時間がかかり、また愛着があるので販売はむずかしいのでは。

(委員) 婦人の家知らない人がいる。公民館だと思っている。

(委員) フェスティバルと同日に開催している、公民館の作品展だけ見て帰ってしまうので、婦人の家にも足が向くように考えてはどうか。

(指導員) 去年も、公民館の入口や階段のところに案内板を出していたのだが。

(委員) 作品を出す人や、発表をする人も宣伝すればよい。

公民館で案内をしている人にも協力してもらえばどうか。

(副館長) フェスティバルの当日は、職員も出るので館内放送などもしてみたい。

協議事項 (3) その他

(副館長) 開催する講座について、いつも頭を悩ませているが、何かないか。

(委員) パソコンはどうか。

(副館長) 当館にはパソコンがないし、公民館で実施している。

また、職業訓練センターでも実施している。

他になし。